

《看護新人教育プログラム(ステップ1)について》

特徴は？

●教育の柱は3項目

「組織の理解」・「実践的看護過程」・「看護技術」をプログラムの柱としています。

●ステップアップを考慮

ステップ1（新人教育）の到達目標がその後のステップに継続して活かせるよう工夫しています。

●質の高い教育システム

より質の高い卒後教育をめざして平成16年度から千葉大学看護学部との共同研究による教育システムに基づいています。

●厚生労働省の「新人が到達すべき教育項目」にも配慮

厚生労働省の「新人が到達すべき教育項目」も到達できるよう配慮しています。

講師は？

●専門講師が担当します

「組織の理解」 看護部長、看護副部長

「実践的看護過程」 看護部科長、看護部主任

「看護技術」 看護部リーダー、認定看護師、急病救急部医師、救急救命士、理学療法士、薬剤師、医療安全管理者、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技師など

内容は？

●組織の理解

理念・方針の理解から、組織人・社会人としての育成を図っています。

* 接遇教育 * メンバーシップ教育

●実践的看護過程

質の高い個別的な看護を実践するために必要な知識・技術・態度を指導しています。

* コンピュータールームでのパソコン演習 * 当院の記録（診療録など）の説明

* クリティカルパス * 看護過程

* 個人情報保護法に基づくプライバシーの保護

* 看護倫理綱領にもとづいた倫理観の育成

●看護技術

看護技術 ①呼吸管理

* 酸素療法・吸引・体位ドレナージ・ME 機器など

看護技術 ②与薬・輸液

* 経口薬、外用薬の種類と与薬時の注意点 * 中心静脈注射の準備と介助

* 輸血の準備、実施前後の観察 * 検体の取り扱い

* 麻薬の種類、主作用・副作用、法律 * 薬剤の管理・曝露

* 注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内）、採血（簡易血糖測定含む） など

看護技術 ③活動・休息

* 廃用性症候群の予防方法 * ADL・BADLの評価方法

これらの教育が現場で継続して活かせるよう病棟でもプリセプター、アソシエート、教育委員がサポートしています。

